

## 1. 2022 (R4) 年度の主な動き

### SDGs推進課設置(2022.4.1)

## 【松江サステナビリティポリシー(松江市SDGs推進基本方針) 2022年7月】の視点

- ◆ 予算、総合計画実施計画で関連明示(R4年3月)
- ◆ 観光戦略プラン等策定時のSDGs視点の織込み
- ◆ 庁内各課の相対対応
- ◆ 未来都市関係検討、国の研修参加



- ◆ プロセス評価実証実験に参加(10月~)

### 「Tsumugi@」

市内部におけるSDGsに関する理解度や推進体制、進め方などに関するセルフチェックのためのオンラインツールの活用



- ◆ まちづくりアンケート

### 【実施期間】

9月~10月

### 【有効回答数】

- ・市民(無作為抽出、1,173名、39.0%)
- ・学生(3年生又は2年生、318名、16.6%)
- ・高校生(2年生、1,524名、76.3%)
- ・中学生(2年生、1,555名、88.6%)

市の施策への反映

進捗管理

多様な主体との連携

推進体制

職員の理解促進

- ◆ 企業連携の協議、ヒアリング
- ◆ ホームページ、SNS、メディア
- ◆ 「身近なSDGs」の募集、PR



- ◆ 啓発ステッカー



- ◆ 記者会見、市報、市民課モニター、年賀状鏡PR



- ◆ 市議会、地域、校長会等での説明

- ◆ 松江市SDGsアドバイザーの委嘱(9/1)



左:「市民パートナーシップ・アドバイザー」  
松本 一郎 氏(島根大学 教授)  
右:「サステナビリティ・アドバイザー」  
川久保 俊 氏(法政大学 教授)

- ◆ 部長会、主管課長会での価値観共有
- ◆ 庁内各課との連携強化(特に環境部門)

- ◆ 第1回SDGs庁内セミナーの開催(9/1)



### 【演題】

「夢を実現できるまち 誇れるまちへ  
導く ローカルSDGs」

### 【講師】

松江市SDGsアドバイザー  
(サステナビリティ・アドバイザー)  
川久保 俊 氏(法政大学教授)

### 【対象】

市長・副市長・教育長・企業局長・  
部長級以上職員(一般職はWeb配信)

- ◆ 庁内広報誌「SDGs Now!」の発行



## 2. 2023 (R5) 年の年明け以降

2月27日(月)・・・「SDGs未来都市」提案書を国に提出

3月27日(月)・・・国の外部委員会で書面審査、  
ヒアリング対象団体に決定

「自治体SDGs推進評価・調査検討会」  
(座長:村上周三 東京大学名誉教授)

4月21日(金)・・・オンラインヒアリング審査(市長がプレゼン)

5月22日(月) SDGs未来都市に選定・授与式開催

### 「SDGs未来都市」とは？

#### (1) 制度概要

- ・SDGsに先導的な取組を行う都市を内閣府が選定(外部委員会審査)
- ・2018(H30)～2024(R6)年度の7ヶ年で210都市を選定予定
- ・未来都市30都市程度/年、うち10事業程度がモデル事業に選定

#### (2) 選定による主なメリット

- ・関連施策実施にあたり関係省庁タスクフォースによる支援
- ・関係省庁・有識者による「未来都市計画」への助言・情報発信 など
- ・財源支援

〈未来都市〉地方創生推進交付金(※)1事業枠追加(現行7→8枠)

(※)R5年度から「デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)」に名称変更

〈モデル事業〉地方創生支援事業費補助金

- ① 全体マネジメント・普及啓発経費:補助率100%・上限1,500万円
- ② 事業実施経費:補助率50%、上限1,000万円

島根県内で初めて！  
モデル事業にも選定！  
(今年度、中四国地方で唯一！)



### SDGs未来都市

選定！

「国際文化観光都市 松江」の豊かさ創出

～地域と世代をツナグ「水の都」と「城下町」の  
持続可能な発展を目指して～



### 自治体SDGsモデル事業

選定！

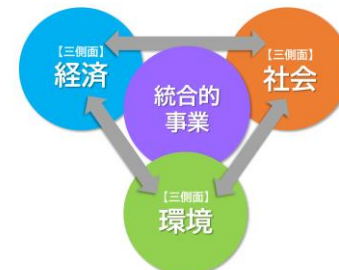
「水の都・MATSUE DREAMS」で達成する  
持続可能な経済・社会・環境

#### 【自治体SDGs推進評価・調査検討会(内閣府の外部委員会)からの講評】

- ◆具体的な事業、統合的な事業、相乗効果、自律的好循環についてよく整理されていると史料する。市長のリーダーシップに加え、市役所の体制づくりが必要であると思料する。
- ◆全体計画もモデル事業も丁寧に計画されている。実現可能性が高いと期待できる。
- ◆水、自然との共生によって国際観光都市を目指しており、ロジカルモデルの導入に加え、観光・意識改革・ブルーカーボン事業で好循環を目指していることが評価できる。モデル事業は宍道湖・中海などの豊かな水域を守る事業提案であり、評価できる。
- ◆コンソーシアムの形成、運営の準備状況と組織的なスキーム、その仕組みとうみづくりプロジェクト、ヘルスツーリズム、水の都のトリセツ、松江流ブルーアップサイクルなどの総合的な情報共有、運営連携の仕組みを期待する。
- ◆市民の参加のかたちが見えないため、具体的にどのように進めるのか枠組みを打ち出すと良いと思料する。
- ◆うみづくりという観点においては、マーケットについて考える必要がある。

・「3側面」の視点での取組を基本。  
・「統合的な事業」によって3側面の  
関係をより強く結びつけ、相乗効果  
を上げる。

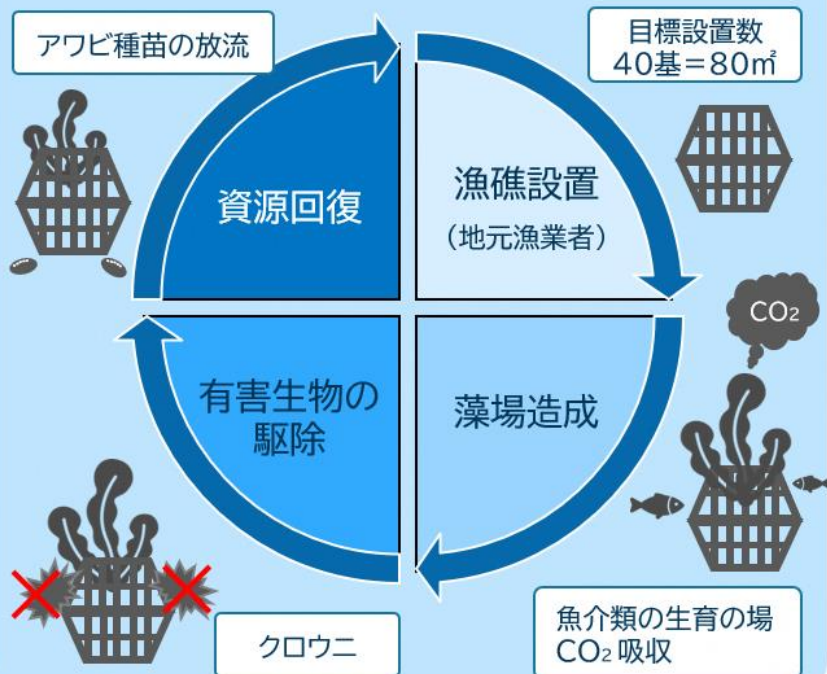
#### 「自治体SDGsモデル事業」の枠組みイメージ



## うみづくりプロジェクト

- ①循環型漁場再生 〈日本海〉
- ②アワビ種苗生産振興 〈日本海〉
- ③潜戸100周年記念タイムカプセル・海底貯蔵酒  
カウントダウンイベント 〈日本海〉
- ④サルボウガイ養殖支援 〈中海〉

〈①循環型漁場再生 ②アワビ種苗生産振興〉  
 クロウニによる漁場被害や海水温上昇の影響により傷つ  
 いた藻場の回復/地元漁業者による小型漁礁の設置



## 水の都の魅力活用

- ①湖に癒されるヘルスツーリズム 〈宍道湖〉
- ②嫁ヶ島栈橋整備・活用 〈宍道湖〉
- ③水辺の利活用促進 〈宍道湖・大橋川〉

〈③水辺の利活用促進〉

大橋川拡幅予定エリアに隣接する白潟公園での飲食・物  
 販・アクティビティ(社会実験)



## 道の駅本庄リニューアル

地場農産品の販路拡大、市民・観光客の交流・賑わい創出  
 〈中海〉

- 〈2023年度〉
  - ・調査準備
  - ・利用者・地元ニーズの調査
  - ・利活用計画策定
- 〈2024年度〉
  - ・関係者調整、基本設計
- 〈2025年度〉
  - ・実施設計、用地取得



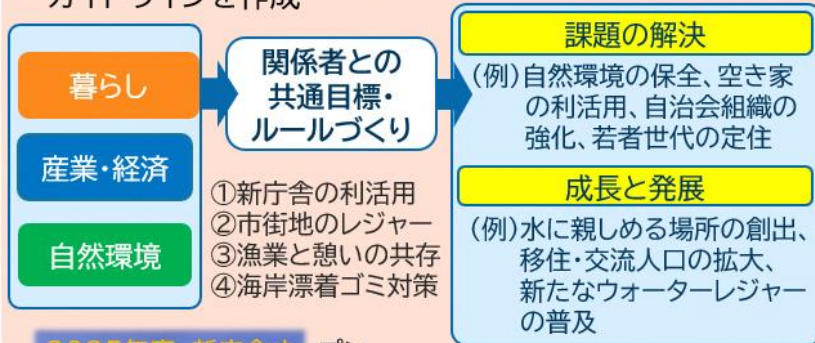
# 主な三側面の取組(社会)



## 水の都のトリセツづくり

- ①市役所新庁舎利活用トライアル〈宍道湖〉
- ②水の都のトリセツづくり〈宍道湖・大橋川編〉
- ③ // 〈中海編〉
- ④ // 〈日本海編〉

自然環境の保全と暮らし・経済への活用の両立を図るため、地域住民ほか関係者ととも、水域資源の利活用ガイドラインを作成



2025年度 新庁舎オープン  
(2023年5月一部供用開始)



## まつえ循環プロジェクト

「まつえ環境クリエイティブディレクター」新羅 慎二氏(湘南乃風・若旦那)と市若手職員が連携、古民家の再生・タンスコンポストの普及・シジミ殻チョーク製作により持続可能な暮らしを実践

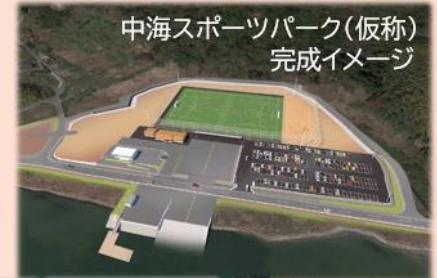


- 〈2023年度〉
- ・ファーマーズマーケット開催
- 〈2024年度〉
- ・古民家改修設計、シジミ殻ワークショップ・商品開発
- 〈2025年度〉
- ・古民家改修、プレイヤー募集

## 中海スポーツパーク(仮称) 整備・活用

人工芝の広場を中核とした多目的パークの整備と周辺湖岸の一体的活用

- 〈2022年度〉
- ・市民アンケート、企業ヒアリング、実施設計
- 〈2023年度〉
- ・造成工事、周辺の利活用計画策定
- 〈2024年度〉
- ・施設建設、管理条例制定
- 〈2025年度〉
- ・供用開始



# 主な三側面の取組(環境)



## 松江流ブルーアップサイクル※

- ①宍道湖浄化と堆肥化実証実験
- ②ブルーアップサイクル研究プロジェクト  
〈宍道湖・中海・日本海〉

### 〈①宍道湖浄化と堆肥化実証実験〉

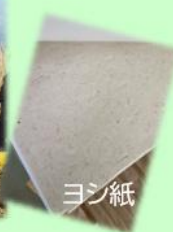
水質悪化の原因である水草の堆肥化に向けた実証実験／ヨシ(葦)を活用したストロー・メモ帳・コースターの製作イベント／ラムサール条約登録湿地の水質浄化・生態系保全の意義をPR



ヨシストロー



ヨシ刈りの様子



ヨシ紙

### 〈②ブルーアップサイクル研究プロジェクト〉

海岸漂着プラスチックごみ・シジミ殻・松江城堀川に繁茂する水草など「厄介者」をアップサイクル／キャンプ用品などアウトドアグッズの開発を通じて環境問題への関心を醸成／化石燃料に代えプラスチックごみの燃料油化を推進



堀川の水草



海岸漂着プラスチック



シジミ

(※)アップサイクル:従来廃棄すべきものに手を加え、新製品に生まれ変わらせる手法

## ジオパークを生かした 防災・減災教育プログラム

### 2017年「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」認定

地質・地形の理解促進により地域の防災意識を向上／出前講座・シンポジウムなど教育プログラムの実施／ジオパーク推進協議会・地域団体との連携による防災・減災教育の実践



ジオパークビジターセンター



ジオパーク防災減災シンポジウム

## 学びのブルーカーボン

- ①ブルーカーボン実証実験(海藻によるCO<sub>2</sub>吸収効果検証・「Jブルークレジット」化へのトライアル)〈日本海〉
- ②ドローンで学ぶ島根半島ブルーツアー〈日本海〉
- ③中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携したブルーカーボン活用研究会の設立

### 〈②ドローンで学ぶ島根半島ブルーツアー〉

水中ドローン・VRを活用した小中学生向け船上環境学習ツアー／島根大学・地元企業・報道機関との連携によるコンテンツ開発



加賀の潜戸

# 統合的事業

(次世代人材の育成とコミュニケーションの質向上によるステークホルダーの持続可能な三方良しの実現)

## 松江流「水の都」NEXTプロジェクト

**Network**

ステークホルダーのネットワーク

**Enthusiasm**

まちづくりへの熱意

**X**

未知の出来事・経験

**Trial**

失敗を恐れないチャレンジ精神



水域資源の保全・活用の両立による  
経済循環のロールモデルを構築

〈事業〉

### ➤ 松江流ESD(※)プロジェクト

#### ■ミライソウゾウプログラム

➔「MATSUE DREAMS 2030」に紐づくSDGsの取り組みを教育プログラムにして中高生に提供

#### ■「水の都tube」僕らのESDプロジェクト

➔市民がSDGsを身近に感じ気軽に取り組める「水の都」をテーマにした動画教材を子どもたちと制作

#### ■ジュニアSDGsリーダー育成

➔大学教授を講師にフィールドワークや合宿方式で行う、中高生対象のリーダー育成講座

〈全体マネジメント・普及啓発〉

### ➤ 「水の都」コンソーシアム

#### ■「水の都」コンソーシアムの設立

➔市民・行政・企業・大学・金融機関などによるSDGsの推進母体

#### ■松江市SDGsウィーク

➔島根大学・法政大学との連携により、シンポジウム・フィールドワーク・海ごみアート展示などを行うイベント週間

〈全体マネジメント・普及啓発〉

### ➤ SDGs推進ビジネスパッケージ

#### ■企業宣言・登録制度の創設

➔サステナブルツーリズムに取り組む観光事業者、地産地消の循環経営を行う農業事業者など、民間企業のSDGsへの取り組みをPR

#### ■入札指名登録の加点制度の導入

➔上記宣言・登録企業の公共調達(総合評価)における加点評価

#### ■ふるさと寄附の拡大

➔循環型漁業再生などSDGs関連事業に充当、SDGs意識の高い企業への訴求



〈全体マネジメント・普及啓発〉

### ➤ 「水の都」だんだんコミュニケーション

#### ■ふらっと縁カフェ+SDGs

➔市長が市民と直接SDGsを語る

#### ■出張SDGs出前講座

➔学校・地域の身近にあるSDGsを学ぶ

#### ■パートナーシップ・アクションレター

➔ステークホルダーの役割分担と相互評価の「見える化」

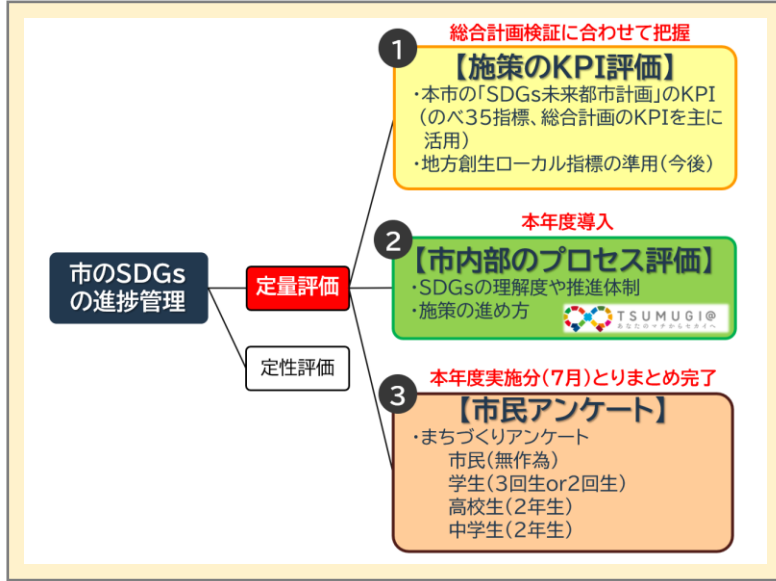
#### ■「MATSUE SDGs NOW!」の発信

➔市民の自主運営によるWEBでのSDGs情報の発信

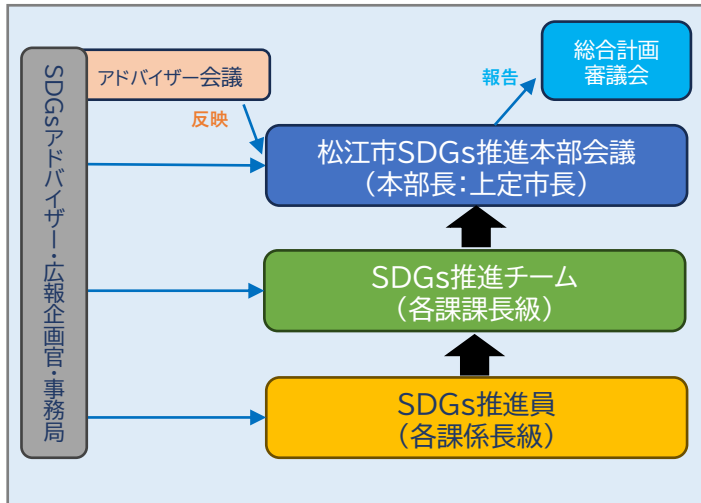
(※)ESD:Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)

### 3. 現在の進捗管理状況

#### 【進捗管理の基本的考え方】



#### 【推進体制】



### ① 施策のKPI評価

※青文字は総合計画(本編)のKPI。その他は主に総合計画(別冊)から採用

分類	項目	単位	区分	現状値	2022年実績	計画目標値		
① 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット	経済	観光消費額	億円		349	459	2030年 2023年度末公表見込 2025年 ※次期身根拠地治水関係全計画(2024年度~)改定に合わせ見直す	
		第一次産業の産出額	億円		95	102		
	社会	将来の夢や希望を持っている児童・生徒の割合	%	小学生 中学生	79 68	77 66		
		住みやすさを実感する市民の割合	%		82.9	81.5		
		合計特殊出生率			1.53	2.22		
	環境	二酸化炭素排出量	千t-CO2		1,434	1,345		
		穴道湖・中海の水質 (COD75%値)	mg/L	穴道湖	4.7~5.3	4.44		4.6
				中海	4.4~5.2	3.97		4.4
		穴道湖・中海の水質 (全窒素)	mg/L	穴道湖	0.45~0.52	0.47		0.47
				中海	0.50~0.59	0.39		0.46
穴道湖・中海の水質 (全りん)			0.038~0.056	0.04	0.039			
② 自治体SDGsの推進に資する取組み(3年間)	経済	創業数(新設法人数)	社		88	102	2025年 R5地球温暖化対策実行計画 策定により決定	
		市内企業Ruby売上高	百万円		1,307	1,700		
		かんべの里工芸品販売額	千円		2,165	8,980		
		第1次産業新規就業者数 (2022年度からの累計)	人		35	38		
		農水商工連携での新商品開発数 (2010年度からの累計)	品		76	88		
		観光入込客数	万人/年		537	716		
	社会	観光宿泊客数	万人/年		115	148		
		外国人観光宿泊客数	万人/年		0.8	0.4		
		男性の育児休暇取得率	%		-	-		
		子育て支援策の満足割合 (子供1人以上・40代まで)	%		62	76		
環境	全国学力・学習状況調査における全国平均値以上の学校の割合	%	小6 中3	36 38	48 56			
	固定的な性別役割分担意識にとらわれない市民の割合	%		74.7	79.9			
	中心市街地の水辺が利用し やすいと 感じる市民の割合	%		51	36.7			
環境	災害時の安心感を持つ市民の割合	%		41.4	40.7			
	再エネ... 未定	-		-	-			
③ モデル事業	経済	観光宿泊客数【再掲】	万人		115	148	2025年 2023年度調査結果により決定	
	社会	水域の利活用ガイドライン作成数	種類	-	-	4		
	環境	水環境にまつわるアップサイクル実現数	種類	1	1	4		
	経済	ふるさと寄附額 (使途:穴道湖・中海などの自然を生かしたまちづくり)	千円/年		16,000	40,226		
	環境	観光消費額【再掲】	億円		349	459		
	経済	UIターン者数	人		1,080	1,187		
	社会	「水の都」の商業利用の増	品		-	-		
	社会	認定ジョイガイド養成数 及び環境市民会議員数	人・団体・企業		認定ジョイガイド55人 環境市民会議員 (個人)205人 (団体)49団体 (事業所)105企業	認定ジョイガイド55人 環境市民会議員 (個人)205人 (団体)49団体 (事業所)105企業		認定ジョイガイド80人 環境市民会議員 (個人)225人 (団体)54団体 (事業所)115企業
	環境	水域を「身近に感じていない、わからない」とする市民等の割合	%		4.5 36.4 29.8	4.5 36.4 29.8		2 18 15

## ②市内部のプロセス評価・・・「TSUMUGI@（ツムギアット）」

### ■セルフチェックのため自治体版SDGs診断ツールの試験導入（7月～）

- ➔2021年から、つくば市、川久保俊氏（法政大学教授、松江市SDGsアドバイザー<サステナビリティ・アドバイザー>）の協力で民間企業が開発
- ➔2022年度、14自治体（松江市、相模原市、徳島市ほか）による実証実験に参加
- ➔2023年度から導入
- ➔「松江市SDGs推進本部会議（8/31）」及び「松江市総合計画審議会（10月）」でその診断結果を報告

➔「TSUMUGI@」の診断カテゴリーは2つ

#### ①フレームワーク診断 ②アクションフェーズチェック

➔各自治体の職員が担当部署についての設問に回答し、そのスコアの積み上げから自治体としての総合スコアを算出

#### ①フレームワーク診断

自治体がSDGs推進に取り組むための実施体制の成熟度を評価（ガバナンス評価）

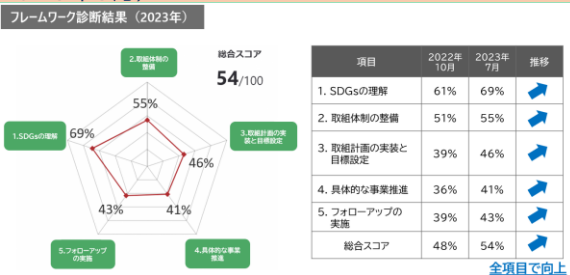
- 各部署は評価軸に  
基づく設問を回答  
SDGs推進課用：64問  
各担当課用：51問
1. SDGsの理解
  2. 取り組み体制の整備
  3. 取組計画の実装と目標設定
  4. 具体的な事業推進
  5. フォローアップの実施

#### ②アクションフェーズチェック

17ゴール各ターゲットに貢献する自治体の取組状況を評価（プロセス評価）全170問  
（SDGs推進課が政策企画と協議し、各担当部署に振り分け）



### フレームワーク診断結果 （2023年8月）



- ➔SDGs未来都市に選定され、市長のリーダーシップのもとSDGs推進本部会議等を設置するなど体制整備をしたことで、SDGsに取り組む意義等の庁内理解に進展がみられた。
- ➔現在は、部署によって理解度に差があるため、今後、より一層SDGsの理解向上を図り、各部署において業務に織り込む必要がある。

### アクションフェーズチェック 診断結果（2023年8月）

#### アクションフェーズチェック結果（2023年）



1. 理解	60%	2. 体制	30%	3. 計画	48%
4. 事業	53%	5. 推進	71%	6. 実施	50%
7. 評価	65%	8. 改善	52%	9. 共有	43%
10. 連携	75%	11. 関係	72%	12. 共有	65%
13. 共有	64%	14. 共有	69%	15. 共有	41%
16. 共有	59%	17. 共有	68%		

ゴール4、8、10で高い達成率

ゴール7、15、17で低い達成率

➔「計画立案/計画策定中」という回答が多いため

➔本市の「強み」であるゴール（4、8、10）と「弱み」であるゴール（7、15、17）が見える化された。弱みであるゴール（達成率下位3ゴール）について、「計画立案中/策定中」の設問回答数が多く、着実に取り組むことで、ゴールへの取組状況が改善されると思われる。今後、地域のニーズ、施策の優先度に合わせて取組をしていく必要がある。

## ③市民アンケート

### 2023年（R5年）まちづくりアンケートの概要

実施期間：6/21～7/5

対象者：18歳以上の市内在住者から、3,000人を無作為抽出

調査方法：郵送で配布⇒郵送またはインターネットで回答  
回収数：1,103（回収率36.8%）

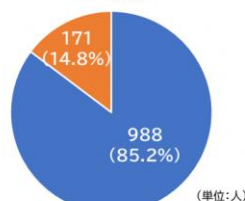
#### 【SDGsに関する設問】4問

- SDGsについての程度知っているか（複数回答）
- SDGsを意識して活動に取り組んでいるか
- （取り組んでいる・取り組みたい人の）SDGsの17の目標のうち、最も力を入れて取り組んでいる分野
- （取り組むつもりがない人の）取り組むつもりがない理由（複数回答）

#### 2022年調査

SDGsについてどの程度知っているか（2022年）

(N=1,159)



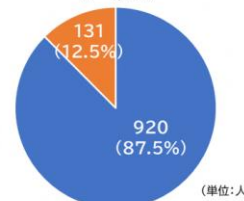
- SDGsについて何かしら知っている人（言葉聞いたことがある、国際目標であること、ゴールやターゲットがあることを知っているなど）
- SDGsを全く知らない人（聞いたことがない）

（単位：人）

#### 2023年調査（速報値）

SDGsについてどの程度知っているか（2023年）

(N=1,051)



- SDGsについて何かしら知っている人（言葉聞いたことがある、国際目標であること、ゴールやターゲットがあることを知っているなど）
- SDGsを全く知らない人（聞いたことがない）

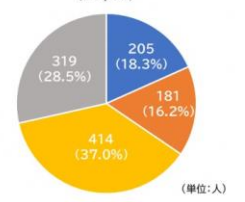
（単位：人）

（注）有効回答人数から「全く知らない（聞いたことがない）」と回答した人の実数を除いた人数を「何かしら知っている人」として整理した。

#### 2022年調査

SDGsを意識して活動に取り組んでいるか（2022年）

(N=1,119)



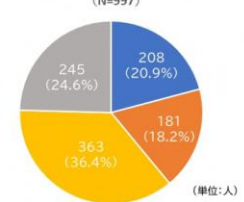
- 個人として取り組んでいる
- 所属先（企業、団体、学校等）で取り組んでいる
- 今後、取り組むたいと思っている
- 取り組むつもりはない

（単位：人）

#### 2023年調査（速報値）

SDGsを意識して活動に取り組んでいるか（2023年）

(N=997)



- 個人として取り組んでいる
- 所属先（企業、団体、学校等）で取り組んでいる
- 今後、取り組むたいと思っている
- 取り組むつもりはない

（単位：人）

#### 「取り組むつもりはない」と回答した人の理由（複数回答）

理由	2022年	2023年
SDGsに関心がないから	32.3%	29.6%
何をしたいかわからないから	57.4%	67.8%
取り組むためのノウハウがないから	23.4%	27.9%
取り組むための経済的余裕がないから	20.5%	20.2%
一緒に取り組む仲間がないから	12.5%	8.2%

【市民が特に力を入れている分野】

（目標3）すべての人に健康と福祉を、（目標11）住み続けられるまちづくりを、（目標12）つくる責任 つかう責任



## 4. 未来都市選定以後の動き

### (1) 市民への情報発信

#### 懸垂幕の掲揚(6/17)



「まつえ環境クリエイティブディレクター」新羅慎二氏(湘南乃風・若旦那)の企画イベント「JUNKAN TALK」



「市報松江」7月号特集記事

#### LGBTQ支援団体との コラボ啓発



・5月中旬～5月末  
・おしまね信用金庫ロビー

#### TV放送、SNSなどによる 情報発信



・マープル(7/6)  
・BSS(7/16, 23) など

### SDGs未来都市・脱炭素先行 地域とのコラボ啓発



・7/18～  
・新庁舎4階展示コーナー

#### 啓発パネルの設置



イオン松江店、8/17～

### SDGsスタディパネルによる啓発



「JUNKAN TALK」や松江水郷祭においてSDGsのゴールごとに、関連するキーワードや世界と日本の現状を周知(@新庁舎2階)

#### 市立図書館リニューアル企画



10/1～31、入口の展示ケースにおいて脱炭素先行地域・SDGs未来都市に関する展示

※SDGs スタディパネル概要

川久保アドバイザーの研究室においてまとめられた啓発ツールでSDGsに関する理解を促進し、行動を誘発する学習ツール

#### 出張SDGs出前講座

- ・松江第一中学校
- ・生馬公民館
- ・各種団体
- ・松江市議会議員研修会(8/28) など

#### 【只今準備中】

- 松江市オリジナルSDGsロゴマークの作成
- 市内企業へのSDGsセミナー
- 松江市SDGsシンポジウム
- 地域出前講座(津田公民館、乃木小学校 他)
- 職員研修(推進チーム、各課SDGs推進員への研修の定例化)

### (2) 市役所内部での浸透



#### ■ 職員個人への浸透

- ・「SDGsバッジ」の着用推進
  - ➔ 職員(企業局含む)、市議会議員への購入斡旋
- ・新たな職員名札への「SDGs未来都市」文字の刷り込み
  - ➔ 職員提案によるデザイン候補に投票(7月～8月)
  - ➔ 2023年度内に新しい名札へ切り替え予定
- ・職員向け「SDGs文庫」の設置(8/31～)

#### ■ 推進体制の構築

- ・SDGs推進本部の設置(6/9)
- ・SDGs推進課に職員を増員(7/1)
  - ➔ 松江財務事務所との人事交流
- ・第1回SDGs推進本部会議開催(8/31)
  - ➔ 松江市のSDGsの進捗状況報告
  - ➔ 職員向けSDGsセミナー開催
    - 【講師】松江市SDGsアドバイザー  
<市民パートナーシップ・アドバイザー>  
島根大学 松本一郎 教授
- ・庁内各課の課長による推進チーム、窓口となる係長級を推進員に選定(7/21)
  - ➔ 研修、庁内浸透のための意見交換会などの開催を検討

#### ■ モデル事業の推進

- ・34事業のうち23事業(67.6%)着手(9/20現在)